



有田焼400年を 支えてきたおんなたち



写真：「染付有田皿山職人尽し絵図大皿」の部分（有田陶磁美術館蔵）

いよいよ来年は日本磁器誕生・有田焼創業400年の節目のときを迎えます。今年、平成27年からすでに動き始めた事業もありますが、そんな中で、各地で有田焼の歴史についてお話しする機会がありました。

10月に開催された東京有田会では明治期の有田について、また、10月末から11月初めには北九州市や福岡市で、女性ばかり200名から400名の皆様に前に、有田の歴史についてお話ししましたが、女性の方々に前に何を話しようかと思い、タイトルを「女性が支えた有田焼400年」としました。

ところで、安倍首相は「女性の活躍は、国の新たな活力の源であります。今後の我が国の社会経済において、女性の優れた能力や新たな視点、豊かな感性を十分に活かし、新たな可能性を切り拓いていかなければならないと考えております」という談話を発表されました。この言葉を聞きながら、何をいまさらという感じがなくはなかったのですが、皆様は如何だったでしょうか。

個人的な思いですが、有田焼の400年を支えてきたのは女性、おんなたちだと思っています。ただ、資料等にその名を残しているのは江戸期の百婆仙が唯一ともいえるほど、ほとんどが男性、おとこたちです。でも、有田陶磁美術館所蔵の佐賀県重要文化財「染付有田皿山職人尽し絵図大皿」には、おとこたちに交じって焼物作りに精を出しているおんなたちの姿があります。この大皿に登場するのは全部で37人。内訳は男29人、女5人と子どもが3人です。女性たちは呉須を摺る作業やワクスイカケ（釉薬かけ）、登り窯で使用する薪の皮を剥ぐ作業など、それぞれの分野で仕事を行っています。

この大皿の中には描かれていませんが、おそらく、絵書き座の一角で絵付けの仕事を行っていたものと思われる。それは線書きした中を呉須で塗りこめていく濃みという作業工程は今も女性が担っていることが多く、「濃み娘」という言葉も残っていることから、歴史的に見ても女性が担当する工程であったと想像できます。

「有田町史 陶業編Ⅱ」によれば、明治40年（1907）の有田町（当時）の窯業戸数81戸、内本窯31戸、錦窯（注：赤絵屋）50戸で職工数は1025人、うち男子560人、女子465人とあります。まさに有田焼の半分はおんなの職人によって作られていたことがこの数からもわかります。

ちなみに、賃金は平均でおとこが一日75銭、おんなは30銭とこちらは約半分。今で言う給与格差があり過ぎるのではと思いますが、仕事の内容に大きく差があったのかもしれない。

いずれにしても、今も昔も有田を支えているのはおんなたちであると思いますし、これからも女性たちの更なる活躍を期待しています。（尾崎 葉子）



写真：濃み仕事をする女性（昭和40年代、写真提供 照井一玄さん）

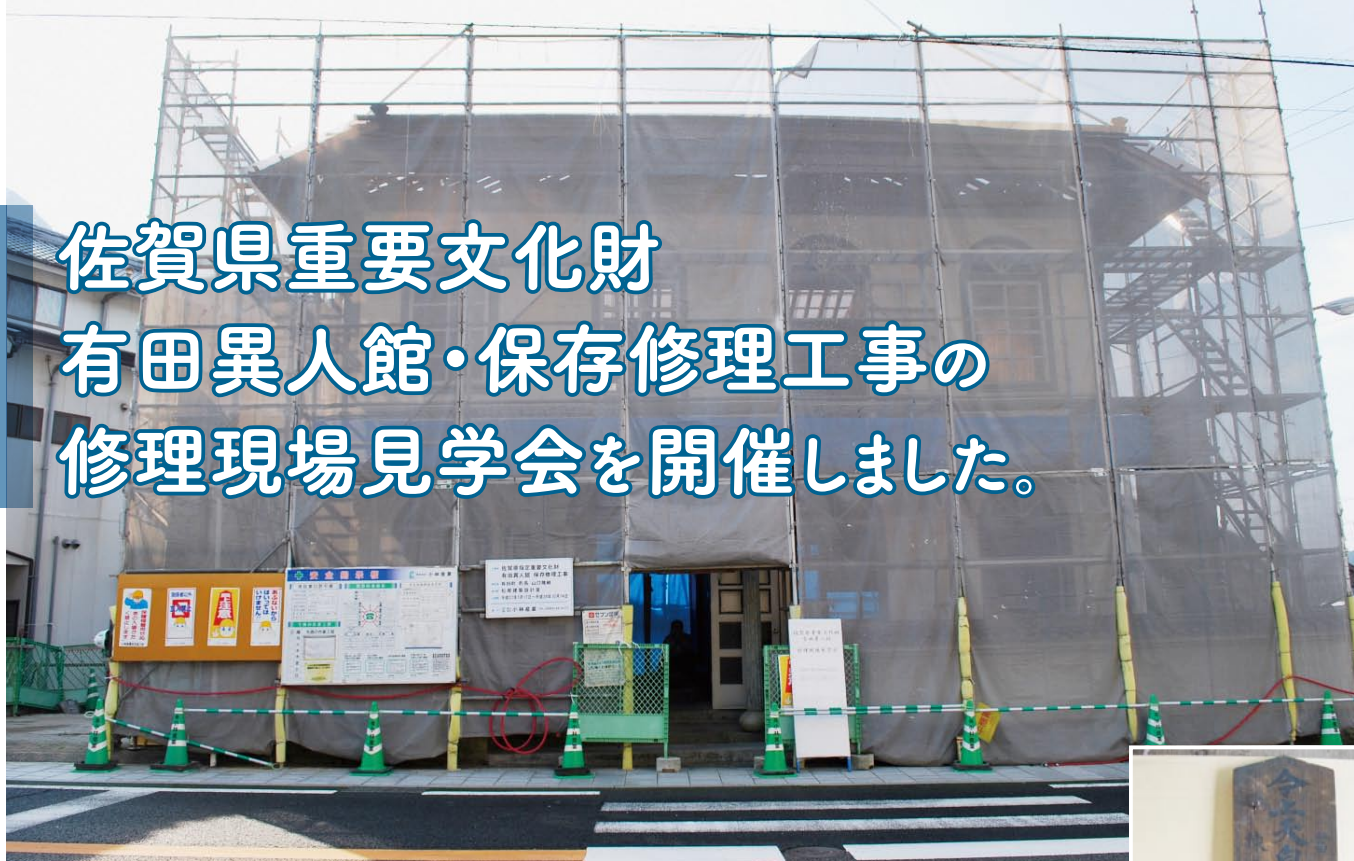
皿 季刊 山

No.108

冬
2015

有田町歴史民俗資料館・館報

佐賀県重要文化財 有田異人館・保存修理工事の 修理現場見学会を開催しました。



保存修理工事中の全景



見学会



見学会



明治9年(1876)の
年号が記された棟札

有田町教育委員会では、平成26年度から佐賀県重要文化財・有田異人館の復原保存修理事業に取り組んでいます。建物は、文化財建造物としての価値が最も高い建築当初(明治9年)の姿に甦らせたいと考えていますが、建築当時の図面や写真などの史料がないため、本格的な保存工事を行う前に一旦建物を解体し、大学の先生や設計士など文化財建造物に携わる専門の方々により、建物の痕跡(部材やほぞ穴など)などの確認調査を行い、慎重に検討・協議を重ね、保存修理の方向性を定めながら事業に取り組んでいます。

11月14日(土)の午後、本格的な保存修理工事に入るのを前に、解体工事が終わった復原修理中の状態で現場見学会を開催し、町内外から約40名の方々に参加いただきました。見学会では、文化財課担当者から、これまでの痕跡確認調査などから得られた情報を基に、有田異人館の建築当初から現在までの増改築・曳

き家などの変遷や保存修理工事の方向性についての説明を行いました。

また、有田異人館を建築した田代家が海外貿易を積極的に行うため、日本を訪れていた外国人の宿泊や接待をするために使用したことや田代家が幕末明治期に活躍した様子などの歴史的な説明を行いました。

その後、設計監理を担当している設計士から壁に張り出した図面や古写真、建築当時の棟札などを使って工事の進捗とともに、僅かにその痕跡が確認できた壁紙をどのように再現するかなどの説明がありました。それらを見ながら参加者も完成後の姿を想像されたのではないかと思いますし、有意義な時間を過ごすことができました。

今後しばらくは工事が続きますので、近隣の皆様にはご迷惑をおかけしますがご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(池田 孝)

平成27年度企画展

「天狗谷窯跡発掘50年 ～あれから半世紀」 開催中

現在、前回の館報でも紹介した今年度の企画展を開催中です。企画から準備まで、今回も有田れきみん応援団の皆様にご多大なご協力をいただきました。

今回の展示は主に下記のテーマごとに展開していません。

1、天狗谷とは

残された文書資料等に「天狗谷」という文字が掲載された下記の資料を紹介

- ・ 皿山代官旧記覚書 安永貳年（1773）巳年日記
- ・ 金ヶ江家文書
- ・ 星岡史話 明治18年（1885）4月

2、天狗谷窯跡発掘調査の端緒となった史実

この調査が一般的にどのように取り扱われたか、町内外の資料で紹介

- ・ 広報有田
- ・ 新聞など報道関係

3、発掘調査内容とその成果

50年前の発掘調査時に記録された図面や手帳、撮影された写真や出土した陶片を紹介

- ・ 出土した陶片
- ・ 当時の記録類
- ・ 発掘時に撮影された写真など

4、発掘秘話

この当時、有田町は財政再建団体に陥っており、



一次調査

さらには今も「42水」と呼ばれる大災害にも襲われながら、創業350年祭も挙行了した

- ・ 調査時に襲った昭和42年7月の大水害（42水）
- ・ 有田焼創業350年祭のポスター、記念皿、式典写真など

5、発掘終了後の経緯

有田町文化財保護委員会が組織され、天狗谷窯跡が町の史跡第1号に指定された。その後、昭和55年には肥前磁器窯跡として泉山磁石場、山辺田窯跡、原明窯跡と共に国の史跡に指定された

- ・ 有田町史跡指定第1号から国の史跡へ
- ・ 発掘調査報告書の刊行

これらの資料や写真パネル、陶片などを展示しています。そのほか、発掘調査当時に有田町公民館（当時は教育委員会内の公民館が主となって調査団の対応を行った）職員であった方々に、そのころの話を伺いましたので、モニターでその様子を放映しています。

今回は来る平成28年、有田焼創業400年事業の一環として実施しますので、年を越して来年1月11日（月）まで開催しております。

有田の窯跡の中で、初めての学術調査が行われた天狗谷窯跡発掘調査が持つ意味を、展示資料を通して感じていただければと思います。

会期 平成28年1月11日（月）まで

但し、平成27年12月29日（火）～平成28年1月3日（日）は休館



五次調査B室11室 砂床下よりの出土状況

企画展イベント 「夜間開館と紅葉ライトアップ」

恒例となった当館周辺の紅葉ライトアップとそれに伴う夜間開館を実施しました。今回も通路には碗灯を並べ、ろうそくを灯しました。頭上の紅葉にあてたライトもいいのですが、足下の灯火も風情豊かで、来館者にも好評でした。



天狗谷窯跡現地案内

今回の企画展にれきみん応援団の皆様には準備段階から協力いただきましたが、開催中に展示を見たあと、現地見学を希望される方がいらっしゃるかもしれないということで、予約いただき現地案内を実施しています。

早速、23日(月)に第1号として、鎌倉市在住の田川さんから予約が入り、案内したところでした。この田川さんは明治期の有田焼を海外輸出した起立工商会社社長であった松尾儀助さんの子孫でもあります。



深海家墓碑の 清掃を行いました

町内にあります佐賀県立九州陶磁文化館では12月6日(日)まで、「明治有田 超絶の美 ～万国博覧会の時代」展が開催されています。

展示されている作品の中に「年木庵 喜三製」や「喜三製」の銘がある製品や、その後、香蘭社から分離して精磁会社の設立後に「精磁会社製之」、「精磁会社謹製」などの銘が入った製品がありますが、それらをつくったのが深海墨之助・竹治兄弟です。

この深海家は有田焼創業期にその名を残す深海宗傳・百婆仙夫妻が始まりです。現在、深海一族の墓碑は上幸平・泉山共同墓地内の一角に、初代から六代までを合葬した墓碑や深海平左衛門や墨之助・竹治親子の墓碑が残されています。

ただ、現在は直系の子孫の方が有田には住んでおられませんので、少し荒れた状況でした。そこで、今度の企画展にもその作品が並び、また明治期の有田を牽引した一族に感謝の思いを抱くれきみん応援団の皆様で、10月末に清掃作業を行いました。

清掃後、見違えるようになった墓碑に線香を供え、しばし額ずきながら、深海兄弟に思いを馳せました。



作業中のれきみん応援団のみなさん

季刊『皿山』

通巻108号(平成27年12月1日)
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1

☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL: <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>

※ URL が新しくなりました